

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月24日(金)

### 《谷口トヨ様のお通夜に》

私は、亡くなられた方が教会に運ばれて来た時には、気になって先ず顔を見ます。今日も谷口様の顔を見て一安心しました。

私は、臨終の場に接することの多い立場ですので、その方がどのような人生を歩まれたのかがすぐ感じられます。急いでその方の霊魂のために祈る時もあるし、安心した気持ちになって、「準備なさってください。」と祈る時もあります。

私は先週の木曜日に、今ここにいらっしゃる谷口トヨ様のいらっしゃる施設を訪れて挨拶をして来ました。一週間も経たずに亡くなられたという連絡を受け、“あの日最後の挨拶が出来てよかった”という気持ちです。

私が谷口トヨ様に初めてお会いしたのは、4年前のことです。この教会の担当として任命され、5年目に入りますが、およそ4年前から施設にいらっしゃる信者の方々のために定期的に訪問をして来ました。その中に彼女がいらっしゃったのです。4年前に初めてお会いした時にも、ある程度認知症が進んでいましたので、具体的な話や心の分かち合いはできませんでした。ただ、幼い子どものような笑顔で私を迎えてくださり、私も笑い話をしながら、ただ元気な姿を見て安心して帰るような関わりでした。

今日、谷口様の顔を見て、ある意味では嬉しかったです。お母さんが施設に入られてから何年経ちますか？ 8年ですね。私と出会う4、5年前ですね。施設に入られてからは、施設のいろいろな方々の世話を受けられたようです。そして、お母さんに対する息子さんの心も本当に美しかったと聞いています。このようなカトリック式のお通夜やお葬式も、長男である息子さんの許しがなければできません。息子さんは、お母さんの気持を尊重され、ずっと前からお母さんの望みどおりにカトリック式のお葬式をしたいとおっしゃっていました。施設に入られるまで、一生懸命に、命がけで信じてきた神様のもと、聖堂で、このような式を行えることになって、お母さんの心も嬉しいと思います。

明日のお葬式の時にも、亡くなられた谷口様について、感じたことを申し上げると思いますが、今日のお通夜を通して二つだけ申し上げたいことがあります。

一つは、私たちは人間ですから、いろいろ過ちを犯しながら人生を過ごしています。皆様も私も、たぶんこのお母さんも同じだったのでしょう。『通夜』とは、どういう意味でしょうか。漢字の通りに解釈すれば、“夜を通すこと”、“夜通しすること”です。夜通し何をするのでしょうか。今は、葬儀屋などに全て任せられて、通夜式を終えたらすぐ家に帰られることが多いです。しかし、通夜のもとの意味は、この世での最後の別れを準備しながら、このお母さんと関わってきた全てのことを振り返る時です。和解が必要なのに和解出来なかったことがあれば、最後の和解の機会とし、赦しをもらわな

ければならないことがあれば、赦してください、という真面目な告白をする機会です。息子さん、娘さん、ご遺族の方々の心の中には、いくら心をこめて最善を尽くしてあげても、見送る時には、すまないと思う気持ちが残るものです。それは私も同じです。私も日本に来る前に3年間、倒れた父の面倒を見ました。自分の仕事を全部休んで、父のために3年間の時間を使いました。しかし、見送った後にはできなかったことばかりが心に残りました。その悲しみが2、3年間続きました。相手が生きているうちに最善を尽くして、心を全てかけて、心配りができれば、もしかしたら「ああ、よかった。ご苦労様でした。」という挨拶ができるのかもしれませんが。しかし、多くの場合、私たちには未練が残ります。「もっと優しくしてあげればよかった。」「もっとたくさん訪ねてお母さんを慰めてあげればよかった。」という心が必ずあると思います。ですから、このお通夜は、逝かれるお母さんに対して、もし十分にできなかったところがあれば、その気持ちを溶かす時間にしていただきたいと思います。逝かれる方の心と見送る方の心と、どちらがより悲しいかは、分らないと思います。お母さんは、今はもう認知症から解放されているでしょう。ですから、愛された息子さん、娘さんの顔をよく見ていらっしやると思います。そして、もどかしい心で伝えたいこともあると思います。気軽に、喜んで、「お母さんが信じてきたその御国に入ってください。私たちは元気に頑張ります。」という約束の挨拶ができるお通夜になっていただきたいと思います。

二つ目の話は、今ここでお通夜に与っている皆様と私も含めて振り返ってみたいと思うことについてです。それは、順番についてです。

遠い未来か、近い未来か分かりませんが、私たちもいつかこのような姿で、このようなお通夜式で、たくさんの人々の祈りの内に逝くことになると思います。その順番は誰も知りません。上手に生きている人が先なのか、それとも上手に生きていない人が先なのか、良心的に生きている人が先か、そうでない人が先なのか、誰が先になるのか分かりません。宗教的な考えを別にしても、私たちがいつも意識しなければならないことは、上手に死ぬことです。では、上手に死ぬためにはどうすればよいのでしょうか。その結論はただ一つです。それは、上手に生きることです。上手に生きるとはどのようなことでしょうか。それは、できるだけやりがいを感じる振る舞いを見せることです。誰に対して？自分に対して、です。自分のために、“どうすれば上手に生きられるのか”、“どうすればこの短い人生、ある意味では虚しく見えるこの人生を、意味を持って生きることができるのか”それを毎日意識しながら、新しい日を迎えなければならないと思います。

皆様も私も、この世の中にいる全ての人には、いつか死を迎える日が来ます。覚悟を持ってください。死を考えずに、正しい人生を生きることではできません。死を考えずに、成熟な自分を作ることはできません。死を見ながら、へりくだる心も習うし、正しい恐れも感じるし、どうすればふさわしい人生を過ごすことができるかも考えられます。

皆様、お母さんの死を前にして、私たちももう一回考えましょう。いつか訪れる死に対して、どのくらい準備が出来ているのか。自分に対して本当に「ご苦労様」と言えるのか。それを考えることが

できれば、これから先も、今よりは意味のある時間を過ごせるのではないかと思います。

さあ、話が長くなりました。今日は、このお母さんのために集中して祈りに与っていただきたいと思います。

ありがとうございました。